

第14期Bコース（アメリカ合衆国・アリゾナ州）出国レポート

□ 留学に向けて出発

令和8年7月24日（金）、第14期Bコース研修生がアメリカ・アリゾナ州での留学に出発しました。

成田空港では、「これから始まる留学生活の中で、多くの人との出会いや経験を大切にしながら、自分らしく一歩ずつ挑戦を重ねてください」と、東京都教職員研修センターの職員から激励の言葉が送られました。研修生たちは多くの保護者の温かい見送りを受け、期待を胸に経由地であるロサンゼルス国際空港へ出発しました。



《成田空港 出発式の様子》



《ロサンゼルス国際空港での記念撮影》

ロサンゼルス国際空港では、乗継ぎまでの時間を利用して昼食をとりました。研修生にとってアメリカで初めて自ら食事を購入する機会となりましたが、それぞれが英語でのやり取りに挑戦しながら落ち着いて対応することができました。

その後、フェニックス空港行きの便に遅延が生じたものの、大きな混乱もなく無事にフェニックス空港へ到着しました。空港では、現地で研修生をサポートする受入機関のスタッフの方々が出迎えてくださり、研修生たち

を温かく迎えてくださいました。研修生たちは、長時間の移動を終えた安堵感とともに、これから始まる現地での生活への期待を新たにしている様子でした。

空港からは専用バスで宿泊兼オリエンテーション会場となるホテルへ移動しました。到着時刻に遅れが生じたため、この日は夕食後に早めに就寝し、翌日以降の活動に備えて十分な睡眠時間の確保に努めました。

□ 到着オリエンテーション

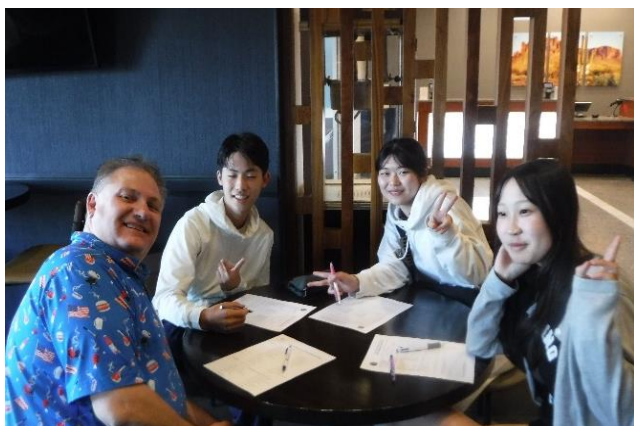
2日目の午前中は、前日に空港で出迎えてくれた現地スタッフの紹介が改めて行われた後、東京都教職員研修センターの職員から、これまでの先輩研修生の留学先での活躍や、これから留学生活を始める研修生への期待について話がありました。研修生たちは時折笑顔を見せながらも、真剣な表情で聞いていました。



《研修ゴールの発表の様子》

続いて、バイリンガルカウンセラーから、日本の家族とホストファミリーとの違いやバイリンガルカウンセラーの役割、ホストスクールを欠席する際の注意点などについて講義を受けました。その後の「研修ゴール設定」の活動では、それぞれが留学中に達成したい目標を考え、互いに発表しました。

午後には、現地での生活を安心して始めるため、現地保険の内容や利用手続について説明を受けました。また、ホストファミリーとの生活で起こり得る場面を想定したケーススタディを実施しました。研修生たちはロールプレイを通して、相手の立場を考えながら自分の思いを伝えることや、より良い関係を築くための適切な関わり方について実践的に学びました。



《現地コーディネータとアメリカの文化について学んでいる様子》



《ホストファミリーとのより良好な関係作りに向けたロールプレイの様子》

□ ホストファミリーとの対面

3日目の午後、研修生たちの宿舎にホストファミリーの皆さんが迎えに来てくださいました。対面した研修生たちの表情からは緊張や不安も感じられましたが、それ以上に、これから始まるホストファミリーとの生活を楽しみにしている気持ちが伝わってきました。それぞれのホストファミリーに温かく迎えられた研修生たちは、安心した表情で宿舎を後にしました。

約11か月にわたる留学生活が、いよいよ始まりました。研修生一人一人が現地での学びや出会いを大切にしながら挑戦を重ね、次世代リーダーとして大きく成長して帰国する日が今から楽しみです。



《ホストファミリーの方々との出会い》